

令和元年度 学校評価

1 自己評価について

(1) 生徒・教職員アンケート及び保護者の意見等の成果と課題

① 生徒アンケートより

肯定的な回答が、全般的に前年度を上回る結果となった。「先生との対話：先生に理解してもらおうよう話す」という項目以外は85%以上という結果となった。その中でも肯定的な回答が高い項目は、以下4項目である。

「ルール・マナー」(97.5%) 「あいさつ」(95.8%)

「思いやり」(95.3%) 「いじめのない学校づくり」(95.5%)

「学校行事への参加」(95.4%)

この結果は、本校の目指す生徒像の「情操豊かで品位がある生徒」を実現しようとした成果である。生徒、教職員ともに、あいさつや思いやりある行動をしようとして取り組んできたので、目に見える変化として捉えることができ、実感を持って受け止められたものとする。

課題としては、「そう思う」という評価が前年度より下がった項目、及び「そう思う」の評価が低い項目(40%未満)に焦点を当てて取り組むことである。

「そう思う」という評価が前年度より下がった項目は、2つという結果であった。

- ・「アクティブ・ラーニングによる授業」64%→58%(質問内容を変更し内容を聞く)
- ・「楽しい生活」66%→65%(学級学年レクなどの実施)

「そう思う」の評価が低い項目(40%未満)は以下の3項目である。

- ・「学校教育目標・学年目標の意識づけ」25.5%(行事ごとの確認)
- ・「学習意欲・努力の表現」32.7%(努力を認める、教員の声かけ)
- ・「先生との対話」33.3%(会話の少ない生徒の把握と学年対応)

今後も授業改善に努め、アクティブ・ラーニングによってどんな力が得られたかに質問を変えることと、学級活動・授業を通して、お互いを受容し、自己表現したり、互いを認め合う機会を増やし、生徒の自己肯定感を高めることに重点を置きたい。

② 職員アンケートより

すべての項目で、肯定的回答が80%を超えた。85%を超えなかったのは「情報発信」である。肯定的回答が100%だったものは、「学校教育目標及び経営重点の理解」「いじめや暴力をなくす」「公正な評価」「特別支援教育の推進」「防災指導」「傾聴と丁寧な対応」「自動音声の導入」の7項目である。

また、昨年度85%を越えなかった「特別支援教育の推進」は100%に、「進路指導の充実」は86%に上昇した。その中でも「そう思う」という評価の経年比較では、以下の3項目が15%以上伸びた。

- ・「学校目標への意識」44%→60%
- ・「道徳・思いやり」34%→41.9%

・「傾聴と丁寧な対応」 46%→61.4%

課題としては、「そう思う」が40%未満で低い項目は、以下の10項目である。

- ・「三大伝統への取組」(31.8%) 「楽しい生活」(33.3%)
- ・「落ち着いた学校」(39.5%) 「わかる授業」(35.6%)
- ・「特別支援教育」(20.5%) 「傾聴・長欠対策」(27.3%)
- ・「防災指導」(35.6%) 「コミュニケーション」(37.8%)
- ・「進路指導」(18.6%) 「面談」(36.6%)

今後、以下の取組を活性化し、課題を少しでも解消できるようにしていきたい。

- ・「三大伝統」を引き上げるために…委員会活動や部会活動のさらなる活性化
- ・「楽しい生活」を引き上げるために…特活などで学級レクの実施
- ・「落ち着いた学校」を引き上げるために…廊下での声の大きさと放送内容の見直し
- ・「わかる授業」を引き上げるために

…学習課題、思考の足跡とポイントがわかる板書計画

- ・「特別支援教育」を引き上げるために…困り感を持った生徒がいたとき、それぞれの特性を考慮した具体的な手立ての実行
- ・「長欠対策」を引き上げるために…次年度に向け丁寧な引き継ぎと指導計画の立案
- ・「防災指導」を引き上げるために…講師招聘やビデオ活用など避難訓練の実施
- ・「コミュニケーション」を引き上げるために…SGEや学級レク等の実施
- ・「進路指導」を引き上げるために…年間計画の見直し、キャリアパスポートの活用
- ・「面談」を引き上げるために…計画の見直しと授業のコマとしての実施

以上の取組を行っていきたい。

③ 保護者アンケート

保護者の授業参観、行事、保護者会等での意見、学校アンケートに対する意見、感想等では概ね肯定的な意見、感想が多かった。

今年度、学校評価でいただいた意見は、

- ・働き方改革があるが、生徒や保護者の意見吸収の場を作ってほしい。削減するものと残す伝統を考えてほしい。
- ・「学校評価」で子どもの本音が分かりづらい。文章で知りたい。
- ・アクティブ・ラーニング授業の内容や理解についてのアンケートも必要。
- ・体育祭の猛暑対策がありがたい。

今後、行事等の見直しをする場合、生徒の意見も聞きながら変えていくことが大切だと考えている。今年度は猛暑の回避のため、種目の削減を行ったが、生徒から「残してほしい」という声があがったため、生徒会と話しあって出来る形を考えて、その結果、「学級リレー」は残すことにした。今後も教師主導ではなく、生徒とともに考えて、社会や時代の変化に対応していきたい。アンケート項目について、アクティブ・ラーニング授業の内容や理解について聞くアンケート項目を入れていきたいと考える。

(2) 学校評価アンケート（校内運営委員・分掌担当者）に関する考察

① 教育目標・指導の重点

目標の設定や活用の仕方については概ねよいと考えるが、授業時数の確保と運用については、昨年同様、大きな課題を持っている。次年度に向けた教育課程の改善と見直しが必要である。

② 各教科

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善は全教科で行っている。教科内での足並みがそろそろよう、教科内での打ち合わせを単元毎等、まめに行いたい。また、教材の精選や課題設定・評価についても年間指導計画を作成する際に教科内の振り返りを十分に生かしていきたい。新しい学習指導要領の移行措置に伴う指導計画や評価項目の変更を確認しながら、個に応じた指導の工夫に生かせるようにしたい。

教材・教具の管理・活用が十分に行えるよう、各教科部会の確保が課題である。

③ 道徳

授業時数の量的確保は計画通りにできた。課題は、学校の実態に即した指導計画の立案と実践力の向上である。今年度から実施されている「道徳科」だが、他の研修との兼ね合いもあり、学校全体の研修があまり進まなかった。「考え議論する道徳」を具体的に進めていかなければならない。

④ 特別活動

生徒が主体的に活動できるように、生徒会や委員会、部会活動を中心に進めることができた。特に三大伝統や学校行事の取組については向上してきている。学級指導を学校としての系統性を持たせることが課題である。

⑤ 生徒指導

生徒指導に関する学年を越えた共通理解や協力体制は改善されてきている。生徒に寄り添う丁寧な指導も推進されてきている。聴く姿勢を大切にし、生徒理解に基づく指導・支援が推進されている。課題は、生活指導を含めた学級づくりについての研修の機会を積極的に持ち、学校全体で計画的、効果的に行えるよう取り組む必要がある。

⑥ 進路指導

進路指導については、キャリア教育のねらいを十分に捉え、進学指導に偏らない指導計画を見直す必要がある。併せて進路指導に関わる教材・教具の共有・整備、および来年度から導入されるキャリアパスポートの活用も次年度に向けての課題となる。進学指導については、今年度の課題や資料、教材等を次年度に確実に引き継ぎ、改善を図っていききたい。

⑦ 保健・給食・安全

教職員間での保健安全に関する課題の共有は進んできている。また、安全教育（保健、給食指導、防災訓練等）は引き続き計画的に行う。自転車の乗り方は課題があるので、適宜安全指導を行っていききたい。生徒が主体的に安全管理に努め、地域で避難を支援する側としての意識をより高めていききたい。

⑧ 経営・組織

学校教育目標を柱に各学年・学級の目標や委員会、部活動の目標が意図的に設定され、目指す姿が共有されるようになった。学年主任会を行うことで学年を越えた連携が出来るようになり、相互に補完し合ってきた。さらに委員会活動を計画的に行い、生徒と共に白山中の活動を向上させられるようにしたい。

⑨ 研修

決められた出張研修以外に、校外の研修に自主的に参加することはなかなか難しいが、小中連携を意識した他校研修が行えたのは意義深い。校内研修については、研修部を中心に、校内研究会を計画的に進め、その成果としてアクティブ・ラーニング型授業で、生徒が自主的に学習する授業となってきた。研修部で今年度から自主研修会を立ち上げ、教科の壁を取り払った研修体制ができあがったのも大きな成果となった。

⑩ 教材・教具

教材・教具の保管、管理の見直しや整備については改善が必要である。保管場所の確保が急務なので、空き教室がない中ではあるが、現状の保管状況を把握し、教科部会の協力体制をつくりながら改善していきたい。

⑪ 施設・設備

毎月の安全点検を基に、自分たちで修繕できるものについては積極的に片付けたが、台風等の影響があり業者に依頼がかけづらかったため、対応が遅れがちであった。予算を伴うものの執行については、優先順位を加味し、安全配慮を怠らないように早期対応をこころがけていきたい。

⑫ 家庭・地域社会

学校の教育活動については、HPや学校・学年だより等で積極的に広報することができた。保護者の理解も深まり、昨年度より協力体制が強まってきている。特にPTA役員への支援やおやじの会の協力も推進力となっている。

関係諸機関とも連携を深めることができた。特に市教委・教育研究所、指導課や市役所子ども相談課、とは積極的に会合を持ち、連携を深めてきた。長欠対策や家庭に困り感を強く持つ生徒の指導・支援が円滑に行われるようになってきた。

学校課題を解決するための地域連携の必要性や有用性を教職員間で共有すると共に保護者への発信も行っていきたい。

2 学校関係者評価（学校評議員・PTA役員の意見）について

（1）学校評議員・PTA 役員の意見・感想等

- ・学校アンケート拝見しました。とても細かく分析、考察していて、子どもたち、先生方の取組に感謝いたします。気になった点として、①特別支援教育・長欠対策：「長欠対策は指導、支援が円滑に行われるようになってきた」とあるが、2年生は長欠生徒が多いと聞いているので特別支援・長欠生徒への取組を頑張ってほしい。②施設設備：子どもたち、先生方の安全のために早めに取り組んでほしい。③研修：「校外の研修に自主的に参加するのは難しい」とあったが、できれば色々な研修に参加してもら

い、子どもたちへの指導に生かしてほしい。④面談：先生方が低評価な点について気になります。⑤その他：PTA 役員として、部活動活動費については平等に使っていただきたい。我孫子市も早く「先生以外の部活動指導者の予算」を導入してもらい、先生方の負担が軽減されるよう祈っている。

- ・今年度「働き方改革」が始まり、対策が十分でないまま始まった気がする。親としては学習面や子どもたちへの指導は減らすことなく、充実させてほしい。保護者としても協力していきたい。改革例として、部活動は外部コーチや保護者の協力を得てはどうか。PTA 活動は今の時代も本当に必要か見極め、必要なものを残していきたい。

(同様2名)

- ・アクティブ・ラーニング (AL) について：今は AL が主流の様だが、一部の積極性のある生徒がいつも行動したり考えたりするようになってしまい、他の生徒は何もすることなく授業が終わってしまうようになるのではないかと不安。
- ・職員について：生徒と同様、学校に来られなくなる先生が増えて来たような気がします。「職員同士の会話を活発にする必要があると思う。」に同感。研修会「困っている会」良いと思いました。悩みを抱え込んでいる先生が相談しやすい職場にしてほしいと思います。
- ・進路指導：数年前、兄が高校受験の時、他の保護者から「学校はあまり情報をくれないから自分で高校を考えなければならないよ。」と言われ、実際そうで、塾の先生の意見だけで決めましたが、学校の先生の意見を聞きたかった。今はどうでしょうか。
- ・生徒アンケート結果がすべての項目で肯定的な回答が高い割合でできすぎと思うほどだが、よいことだと思います。自由記載欄があるとよりよい。
- ・保護者からの意見に対して、学校からの回答があるとよい。
- ・運営委員、分掌担当の先生方のアンケートで、記述で改善点、問題点が多数挙げられており、興味深く拝見した。学校をよくするために風通し良く議論することができる職場だと思う。また、評価について、5段階評価で右が高得点のところと左が高得点のところがあったので、そろえた方がわかりやすい。
- ・あいさつに対する取組ですが、少しではありますが、「そう思う」が増え、学校に伺ったときにも挨拶の意識付けができていると感じます。
- ・例年ではありますが、いじめなどの話もなく、今後も同じように続けられるようにお願いします。
- ・災害に対する心構えも増え、いざというときに少しでも大人達の力になってほしいと思います。
- ・全体的に良くなってきている結果が出ていると思いますが、「そう思わない」が増えている結果もありますので、少しでも良い方向になるようにご指導お願いいたします。
- ・今年度は校内合唱コンクールで生徒の様子を見させていただき、白山中の伝統を感じ、安心いたしました。今回の学校評価につきましても、細部にわたり先生方のご苦勞によりとても良い評価につながっていると思います。今後も子どもたちに寄り添い、今回の学校評価に対する考察を来期の学校経営に生かし進めていただければと考

えております。お体に気をつけて、生徒のためになお一層のご尽力をお願いいたします。

- ・生徒アンケート結果と教職員アンケート結果の考察が各々で出ており、それも考察として必要だが、もう一歩両者で同じ項目同士を比較考察してはどうか。例えば、生徒アンケートで低評価の数値が他項目より大きくなった、9「学習意欲の表現・評価」、12「先生との対話・生徒理解」は、教職員アンケートでは低評価の数値が小さめで、両者の認識にギャップがあるのは何故か。教職員側が良いものを発信しているも、受け取る側（生徒）にうまく伝わっていないとしたら残念である。生徒アンケートについては、少数であっても低評価の声に注目して気持ちを聞き取ってあげてほしい。教職員アンケートで低評価についてはそのまま終わりにせず、評価を上げるために次年度取り組んでいただけるよう期待する。
- ・学校評価アンケートの結果より、働き方改革と相反するように対応すべき課題が多いのがわかる。より良い学校へと改革を進めればやりたい、又はやるべき課題は尽きず、教職員の負担は軽減しないようで、日頃より教職員の方々には大変感謝します。生徒にとって良い学校になるのは勿論、働く教職員の方々にとっても魅力ある学校になるよう保護者、地域社会ができることは何か？考えたいものだ。
- ・学校で生徒とすれ違う際、目を合わせて元気な挨拶をしてくれる。下校時の様子を見ていても、楽しそうにおしゃべりをしているが、はしゃぎすぎることもなく、とても行儀が良いと感じます。学校生活が安定しているのだろうと思う。一方で、生徒のアンケート結果を見ると、No.10以降の生活や対人関係がうまくいっていない生徒もいることが分かります。そのような生徒をフォローすることを怠らないでほしいと思います。
- ・学校アンケートを拝見し、概ね前年度より高い評価であることから、学校運営は良好であると思われまます。働き方改革による部活動時間や行事の短縮、電話の取り次ぎ、時間の制限など、先生方の負担が若干減る一方、保護者の不満（要望）が増しているように感じる。保護者の過干渉が過ぎるようにも感じる。地域の方からパール歯科前の横断歩道での下校指導は甘やかし過ぎではないかと意見がありました。忙しい先生方が見守りで立つ必要はなく、「自分の身は自分で守る」くらいの心構えを持つように指導すべきではないかとのこと。冬になると感じることですが、部活後の暗くなった下校時に黒っぽい制服（コート）で歩いていると暗闇に紛れ、ヒヤッとしたことがあります。ジャージのまま下校させてはと思います。コートを着ていても足元は明るく、少しでも目立つのではと思います。

【第三者評価（学識者評価）について】

1) 学校評価には、生徒の立場、教員の立場、保護者の立場に差があります。それらが分かりやすいかたちでアンケート結果として集計・考察されています。本年度も継続したグ

ランドデザインの中で、学校が教育目標、その他の教育上達成すべき目標の設定・達成に向けて数値としてとらえ適切に取り組んでいることを評価します。

(2) 白山中のランドデザインは、「心の育成」も、しっかりと描いています。中学生活の中で、特に、知識、情操、意欲がバランスよく育まれていく必要があります。ランドデザインの随所から、「心の育成」のキーワードが読みとれ、それらのキーワードのつながりが「白山中魂」という校風（ブランド）を生み出すよう構成されています。この校風は、アンケート結果を見ても学校行事、部活等の成果からも生徒、先生、保護者の皆様に良い影響を与えていると評価できます。

(3) 現代社会は激変しています。特に情報通信技術の進歩は目覚ましいものとなりました。気がつかないうちに、情報機器を所有することが所有者周辺の情報収集の道具となっています。今や中学生でも保護者の知らないうちに社会と直接かかわり、いろいろな意味で切磋琢磨しています。中学生でも取り組めるこういった現代社会の諸問題を生徒だけでなく、教員、保護者を巻き込んで話し合ったり、学習したりする機会が増えると学校評価の数値的な向上と質的な満足感が、さらに得られる可能性を感じます。

(4) 今年も白山中の生徒、教員、保護者、白山中内外の連携は、素晴らしいものでした。特に昨年度から発足した白山中が大好きな「白山中おやじの会」の皆様には脱帽します。生徒、教員、保護者の皆様は、新たな伝統として、この一年間で育んだそれぞれの「白山中魂」を次の世代に伝えて欲しいと思います。